

福島原子力災害被災地の 長期的復興・まちづくり研究

東北大学 公共政策大学院

2023年度 公共政策ワークショップ | プロジェクトD

02 石井健太郎 09 桑原健輔 11 後藤栄 12 後藤竜弥 13 斎藤史弥
14 櫻井優芽 16 佐藤空飛 19 鈴木唯斗 21 大徳萌々子 24 水出拓真
御手洗潤教授 度山徹教授 西岡晋教授 チューター 渡辺薫子

目次

- 1 はじめに
- 2 各論
- 3 まとめ

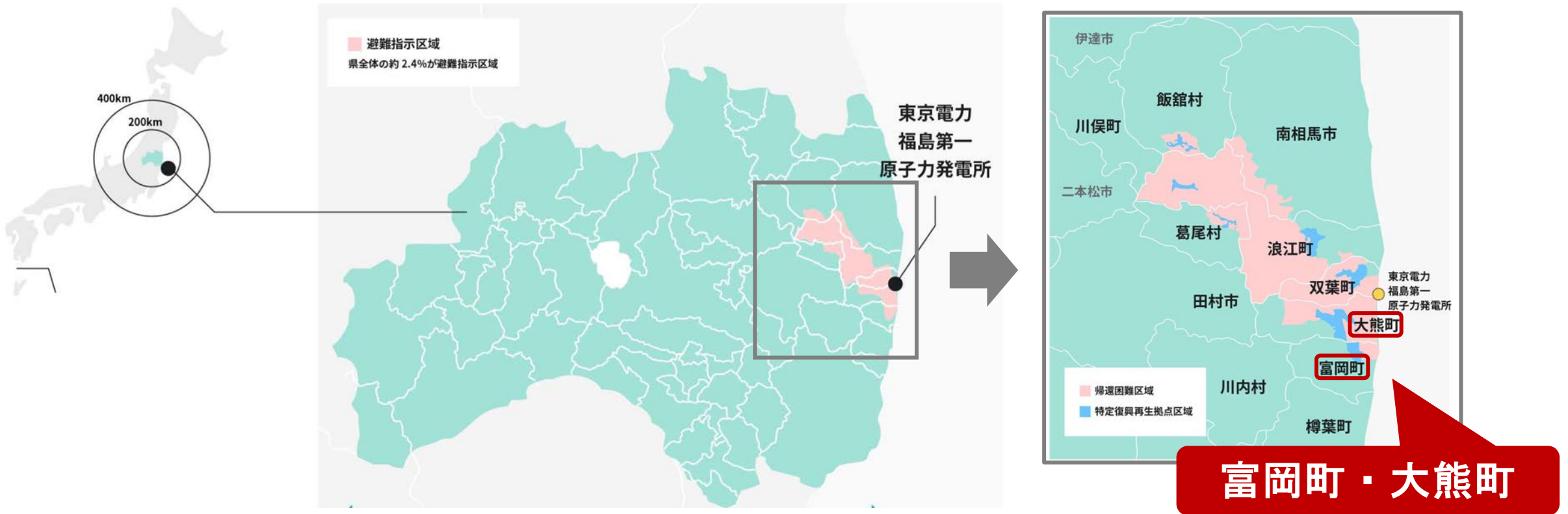
目次

1 はじめに

- ① WSDの意義・背景
 - (1) 富岡町と大熊町の居住人口・避難者数
 - (2) 富岡町と大熊町における「復興まちづくり研究」の意義
- ② これまでの活動
- ③ ヒアリングでの声
- ④ 両町での困りごと
- ⑤ 分野分け

① WSDの意義・背景

WSD 研究対象地域（富岡町・大熊町）



① WSDの意義・背景

富岡町と大熊町の居住人口・避難者数

富岡町		
	町内居住人口	避難者数（県内外）
6,302世帯 15,830人 (2011年3月)	1,633世帯 2,298人 (2023年12月) 震災前の 約 15%	4,824世帯 9,244人 (2023年12月)
大熊町		
	町内居住人口	避難者数（県内外）
4,235世帯 11,505人 (2011年3月)	475世帯 612人 (2023年12月) 震災前の 約 5%	4,378世帯 9,348人 (2023年12月)

① WSDの意義・背景

富岡町と大熊町における「復興まちづくり」の意義

原子力被災地で復興まちづくりを研究すべき理由（意義）

- 原子力被害による避難の広域化・長期化
- 世界でも類を見ない被害と復興のあり方

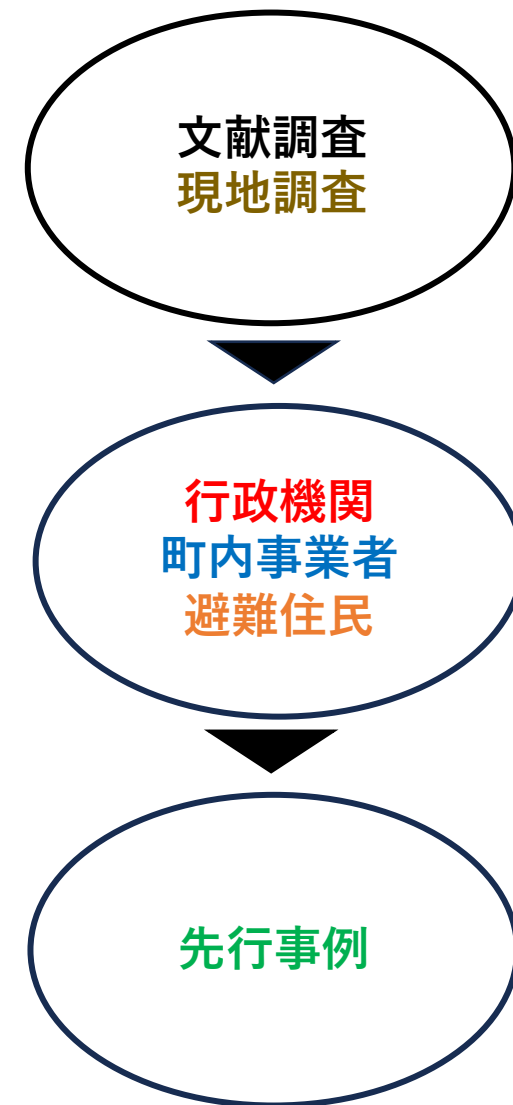
特に富岡・大熊を研究すべき理由（意義）

- 特に避難が長期化した町であること。
- 隣接しているが、復興の段階が異なること。

▶ 周辺の被災地域の復興 に役立つだけでなく、将来起こるかもしれない未曾有の長期的な災害における、よりよき復興 のためにも役立つ。

② これまでの活動

月	研修・ヒアリング先（順不同，敬称略）
4月	文献調査 双葉町まち歩き イノベ機構 大熊町出身学生とのディスカッション
5月	福島復興局 福島県庁 富岡町役場 大熊町役場 とみおかプラス ふたばいんふお 富岡windメニュー さくらの郷 大熊インキュベーションセンター UR都市機構
6月	福島ロボットテストフィールド 東北大学未来科学技術共同センター 原子力災害対策本部
8月	中間貯蔵施設 福島第一原子力発電所 大熊町役場 下神白団地（いわき市）住民の皆様 とみおかプラス おおくままちづくり公社 富岡川漁業協同組合
10月	福島県庁 富岡町役場 富岡町3.11を語る会 (株)ふたば・富岡地区まちづくりワークショップ
11月	復興庁 福島復興局 東京大学先端科学技術研究センター教授 長寿社会文化協会 四万十町 日向市 遊佐町 鯖江市 新妻有機農園 大熊るるるん電力 (株)Wasshoi Lab ビジネスゲートウェイ(株)
12月	東北農政局 島根県益田市 (株)グランドレベル



③ ヒアリングでの声

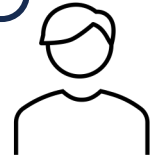
富岡町・大熊町での困りごと

国の制度を利用して、
まだ使える建物も壊されてしまう



30代・町議会議員¹⁾

震災により産業が壊滅してしまった



40代・関係機関職員⁴⁾

商業施設や観光資源が乏しく、
バスの本数も少ない



30代・社会人²⁾

町内で日常的に住民同士が交流できない



40代・社会人³⁾

④ 両町での困りごと

生活環境が整っていない

居住人口が少ない

農地が荒れ放題になっている

産業が無くなってしまった

震災前のにぎわいが失われてしまった

町を訪れる人がほとんどいない

町とのつながりを感じられない

町内に知り合いがいない

⑤ 分野分け

4つの分野

ひと・暮らし

生活環境が整っていない
居住人口が少ない

しごと

農地が荒れ放題になっている

産業が無くなってしまった

にぎわい

震災前のにぎわいが失われてしまった

町を訪れる人がほとんどいない

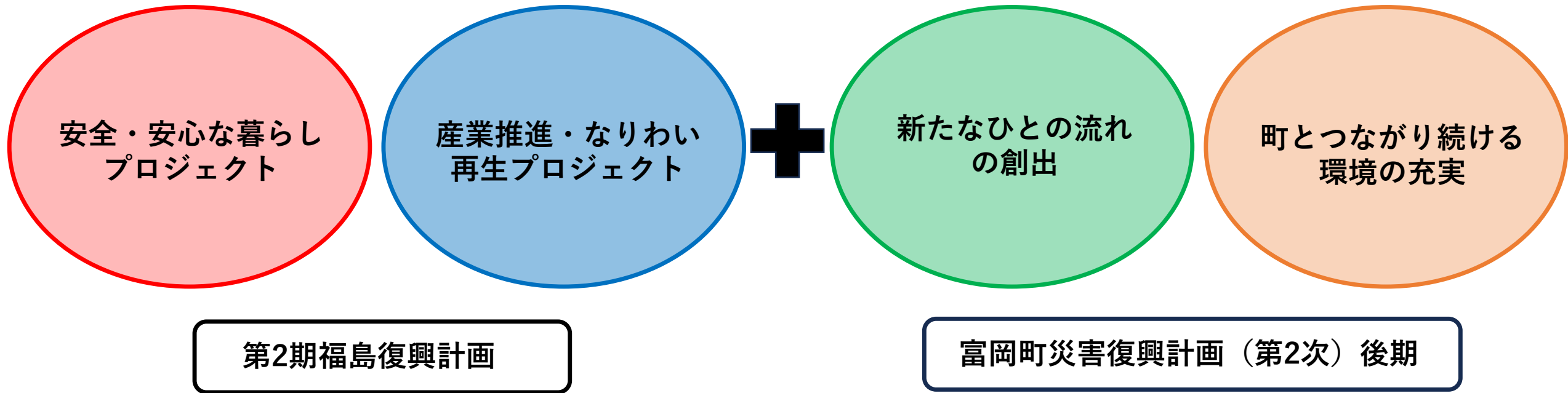
つながり

町とのつながりを感じられない

町内に知り合いがいない

⑤ 分野分け

分野分けの参考



※大熊町の現行の復興計画：町内全域への避難指示発令中に策定

⑤ 分野分け

4つの分野

ひと・暮らし

住宅供給
体験移住
農業体験

しごと

農業の
高付加価値化
農業の大規模化
サケ漁
再エネの
地産地消

にぎわい

商業施設充実化
広域路線バス
サイクル観光

つながり

コミュニティの
創出
協働まちづくり
教育

目次

2 各論

(各論スライドの構成)

- ① ひと・くらし分野
- ② しごと分野
- ③ にぎわい分野
- ④ つながり分野

(各施策の提言先 一覧)

各論スライドの構成

施策名

【目指す姿】

施策が目指す町の姿

【現状・課題（困りごと）】

文献やヒアリング等から抽出した
現状や課題（困りごと）



【現行施策】

現在行われている
課題に対する施策

【着眼点】

現行施策の問題点、新たな視点の持ち込み

各論スライドの構成

施策名

【施策の目的】

着眼点に基づく施策の提言の方向性

【具体的な手段】

提言先

施策の具体的手段



【先進事例】

先進事例等に基づく
施策の実効性を示す根拠

目次

2 各論

① ひと・暮らし分野

(1) 空き家を活用した戸建賃貸住宅の供給

(2) 体験移住

(3) 農業体験型親子ワークショップ

① ひと・くらし分野

空き家を活用した戸建賃貸住宅の供給

【目指す姿】

移住のハードルを下げ、居住者を増やす。

【現状・課題（困りごと）】

- ・ 移住需要よりも家族向け住宅供給が少ない。

(根拠)

- ・ 再生賃貸住宅（大熊町）等に空きが少なく、民間での供給も单身向け集合住宅が中心となっている¹⁾。



【現行施策】

- ・ 戸建住宅改修費補助金等（富岡町）
- ・ 戸建賃貸住宅修繕等支援事業（大熊町）
- ・ 定住化促進対策住宅助成金（富岡町）
- ・ 住宅取得支援事業（大熊町）
- ・ 再生賃貸住宅（大熊町）等²⁾

【着眼点】

家族向け賃貸住宅の供給が少ないため、既存住宅の活用を図る仕組みをつくる。

出典：1) 大熊町役場HP「生活に関する補助」、同「大熊町再生賃貸住宅について（令和5年12月1日）」、アットホーム(株)HP（福島県富岡町・大熊町、令和5年12月1日）

2) 富岡町役場HP「令和5年度住まいの確保支援事業」、大熊町役場HP「住宅支援」

① ひと・くらし分野

空き家を活用した戸建賃貸住宅の供給

【施策の目的】

家族向け賃貸住宅を提供することで移住者（家族）を増やす

【具体的な手段】

提言先：両町

二つの手法による空き家を活用した賃貸

① 中間管理住宅の制度導入

町で空き家を長期間借上げ、リフォーム後に移住者に賃貸

② DIY型賃貸住宅の制度拡充³⁾

借主が物件をリフォームして居住。

町は設計支援及び、リフォーム補助（上限：解体費程度）

【先進事例】

高知県四万十町「中間管理住宅制度」⁴⁾

① 空き家を公募

「お持ちの空き家を町で利活用させてもらえませんか」

② 空き家を町がリフォーム

耐震化・高断熱・内装木質化・水回り

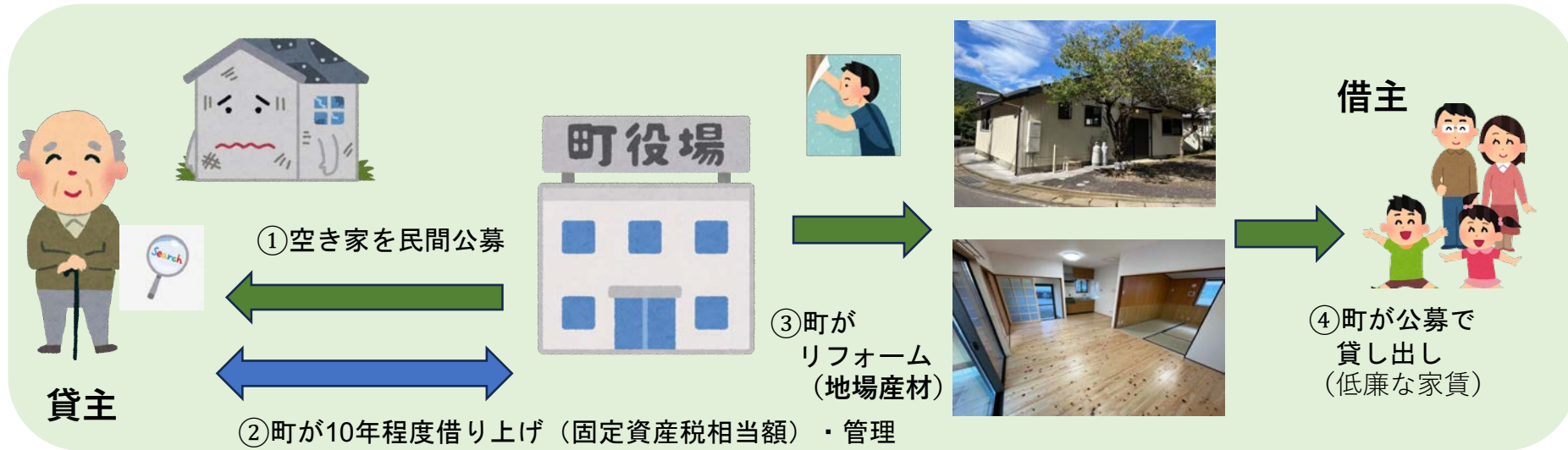
③ 低廉な家賃で賃貸

魅力と個性ある住宅により、移住家族の呼び水となる。

① ひと・くらし分野

中間管理住宅とDIY型賃貸住宅の導入イメージ

① 四万十町型 中間管理住宅⁵⁾



② DIY型 賃貸借住宅⁶⁾ (制度拡充型)



出典：5) 四万十町役場HP「中間管理住宅 (十川・大正中津川) の入居者を募集します」 (www.town.shimanto.lg.jp/life)

6) 国土交通省：ガイドブック「DIY型賃貸借のすすめ」

① ひと・くらし分野

体験移住

【目指す姿】

地域の担い手となる人材を、町の外からも発掘する。

【現状・課題（困りごと）】

- ・依然として居住人口が目標に到達していない。
- ・地域が求める人材の移住促進が必要。
(根拠) 両町復興計画¹⁾



【現行施策】

- ・お試し住宅（各町1戸、7日以内）²⁾
- ・移住支援プログラム
(例：1時間以内の農業体験)
- ・地域おこし協力隊
富岡（農業限定）→募集終了
大熊→業務内容に応じた1人ずつの募集

【着眼点】

地域との接触が限定的であり、潜在的な「担い手となる人材」の発掘に焦点をあてた施策が必要である。

① ひと・くらし分野

体験移住

【施策の目的】 長期間の体験移住と地域との接点づくりを出発点として、自発的な地域交流を促し、もって潜在的な「担い手となる人材」を発掘する。

【具体的な手段】

提言先：両町

事業内容：

- ・半年～1年間の体験移住事業
- ・地域産業や地元の活動者との交流を目的とした定例ワークショップの開催

使用物件： 中間管理住宅（空き家活用）の一部を体験移住用として活用

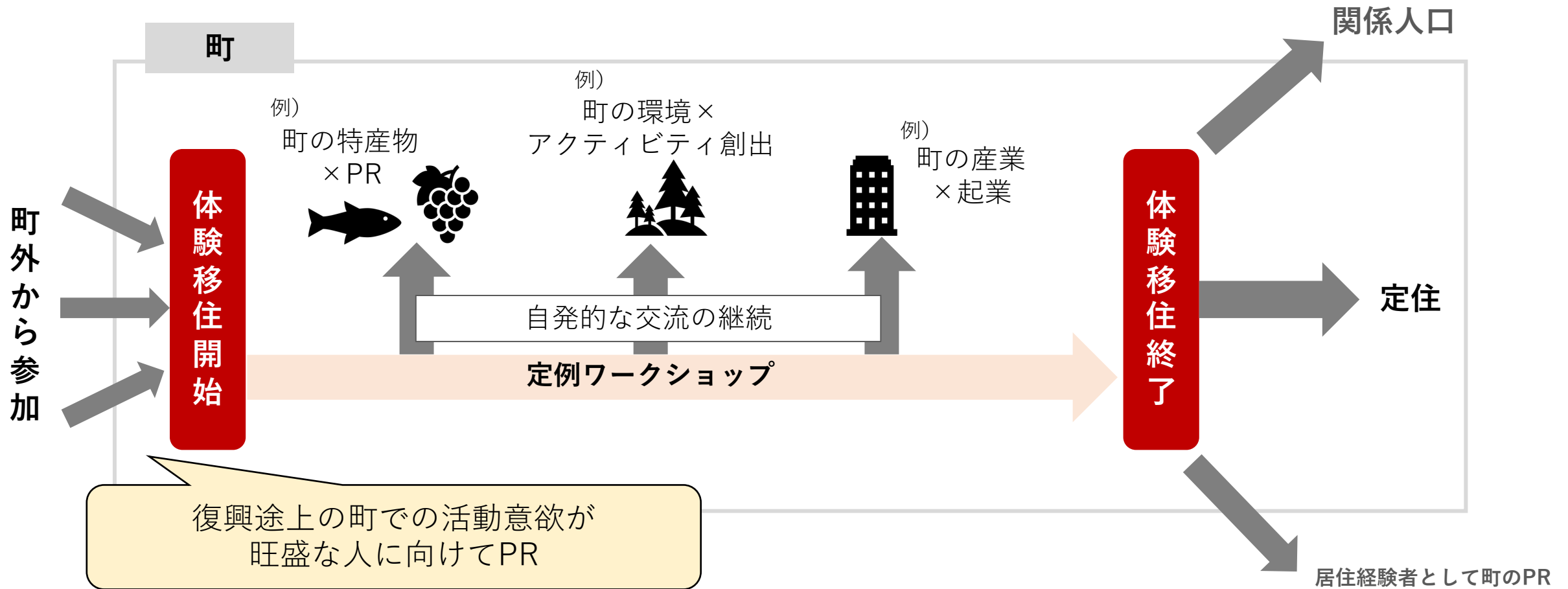
【先進事例】

福井県鯖江市「体験移住事業」³⁾

- ・1年間の体験移住に15名が参加
- ・当初ほとんど移住の意志が無かった参加者の中から、プロジェクト終了後に**6名が県内に移住し、うち3名が市内に移住**
- ・当時のプロジェクト参加者が市内で事業を立ち上げ、**現在も活動中**

① ひと・くらし分野

体験移住による担い手発掘のイメージ



① ひと・くらし分野

農業体験型親子ワークショップ

【目指す姿】

子育て世帯の関係人口・交流人口/移住者を増やす

【現状・課題（困りごと）】

（課題）

・農業においてパートとして働ける子育て世帯が少なく、労働力が不足している¹⁾

・交流人口や移住者が少ない²⁾

【現行施策】

（移住）

・お試し住宅の貸し出し

（子育て・教育）

・グリーン留学（ゆめの森体験入学）

【着眼点】

子育て世帯に魅力的な施策を活かし、その魅力をアプローチをできるような体験プログラムが必要である。

① ひと・くらし分野

農業体験型親子ワークショップ

【施策の目的】

子育て世帯に向けたワークショッププログラムを実施することで、大熊町の魅力を知って貰い、将来的に移住して貰えるようにする。

【具体的な手段】

提言先：大熊町

①大熊町が体験プログラムを作成

(想定されるプログラム内容)

- ・ 農業体験
- ・ ゆめの森での体験入学

②町が関連機関に委託

- ・ 移住定住センター、ゆめの森、町内の農業法人等

【先進事例】

北海道厚沢部町「保育園留学」

1～3週間まちに移住し、食育体験やくらし体験を行いながら、親はリモートワークを行うことができる³⁾
→2021年の開始から**150件**の利用、**1000件**のキャンセル待ち⁴⁾

徳島県、Wellness Farm Club

「企業と農、地域で繋がる”アグリワークショップ” キュウリ編」

3泊4日のワークショッププログラム。午前中はリモートワーク、午後は農業体験が出来る。
→**9人**の参加者⁵⁾

① ひと・くらし分野

農業体験型親子ワークショップ

認定こども園「はぜる」(厚沢部町・保育園留学)⁷⁾

アグリワークショップ(徳島県)⁶⁾



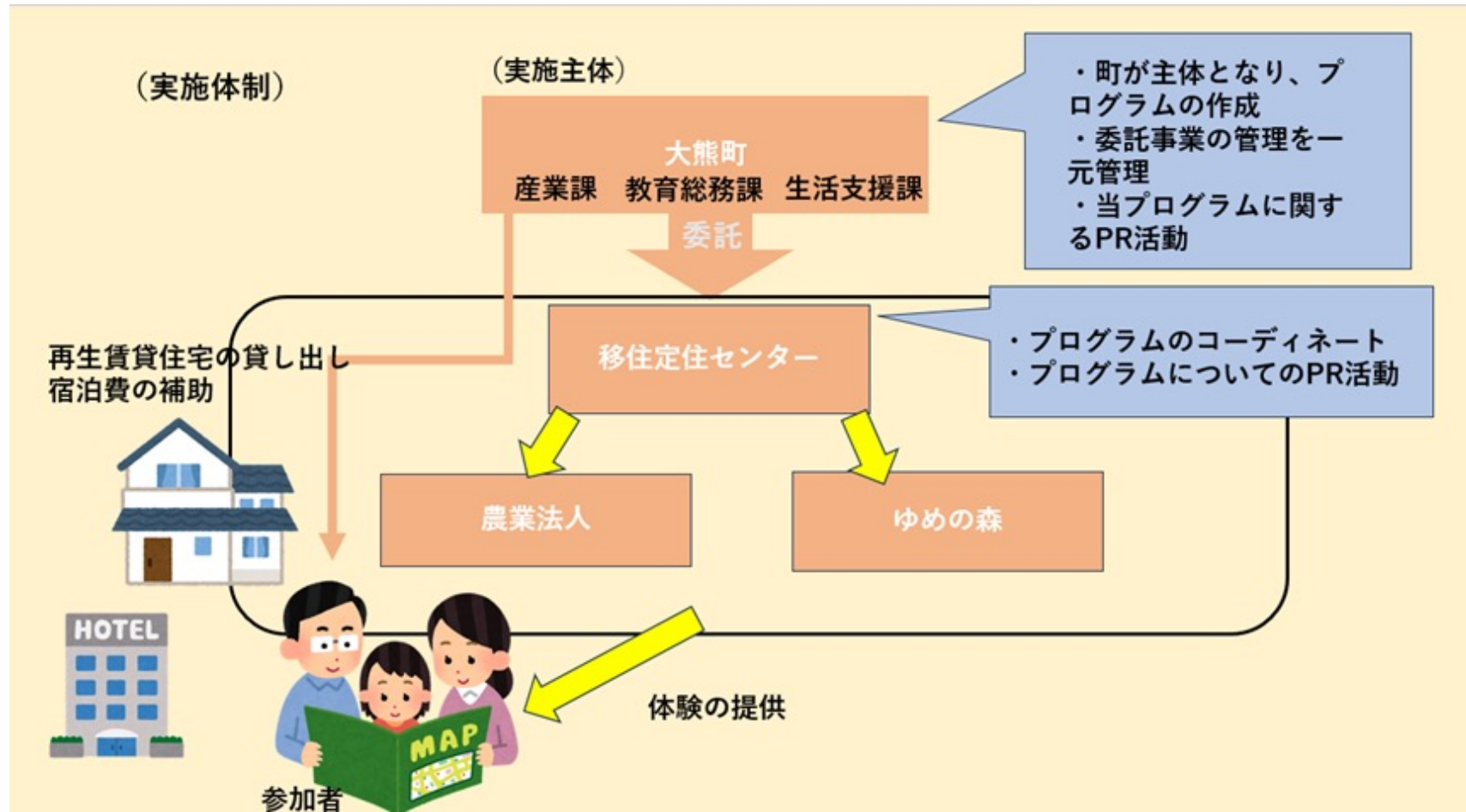
ちょっと暮らし住宅(厚沢部町・保育園留学)⁸⁾

出典: 6) 【徳島県 × Wellness farm club】-企業と農、地域でつながる“アグリワークショップ”キュウリ編@徳島県海陽町 7) <https://hoikuen-ryugaku.com/assabu>

8) <https://guide.hoikuen-ryugaku.com/assabu/stay/chottokurashi>

① ひと・くらし分野

農業体験型親子ワークショップ 実施体制



目次

2 各論

② しごと分野

(1) 農業の大規模化

(2) 農業の高付加価値化

(3) サケ漁の再建

(4) 再生可能エネルギーの地産地消

② しごと分野

農業の大規模化

【目指す姿】 地域における農業を再建し、産業の柱とすることでまちの経済を活性化させる

【現状・課題（困りごと）】

- ・避難した農業者で帰還して農業を行う人がほとんどいない。そのため、荒廃農地・休耕地が多い¹⁾。
- ・そこで農地を集約し、外部の法人の力を借りながら、大規模農業を行う必要がある。
- ・しかし、地権者の中には知らない人に自分の農地を貸したくないという人も多い²⁾

【現行施策】

- 富岡町産業振興課 農協 大熊町産業課による
- ・地権者へのアンケート
 - ・農地と法人のマッチング
 - ・マッチングした担い手への農地の集積³⁾

【着眼点】

- ・避難している地権者は自分の農地を適切に使ってくれるのかという不安を抱えてしまう。
- ・地権者が進出してくる人を信用して、農地を貸すことができるようになれば、農地集約が進むのではないか。

出典：1) 大熊町産業課ヒアリング、富岡町産業振興課ヒアリング 2) 富岡町役場産業振興課ヒアリング、大熊町産業課ヒアリング、新妻有機農園ヒアリング

3) 富岡町役場産業振興課ヒアリング、大熊町産業課ヒアリング、新妻有機農園ヒアリング

② しごと分野

農業の大規模化

	営農休止面積 (2011/12)	営農再開面積 (2022年度)	営農再開率 (2022年度)
富岡町	861ha	205ha	23.8%
大熊町	936ha	21ha	2.2%
福島県全体	17659ha	8261ha	46.7%

営農再開の現状⁴⁾



大熊町における荒廃した農地⁵⁾

② しごと分野

農業の大規模化

【施策の目的】 広大な休耕地を強みとし、外部の担い手の力を借りることで、地域の農業を再建する。

【具体的な手段】

提言先：両町

- ①地権者の信頼を勝ち取る
地域の草刈りやイベントへの参加など
- ②地権者に実績を見せる
小規模でも良いので町内で営農
- ③地域計画の策定の協議への参加

これらを町が外部の農業法人に斡旋

【実行性の根拠】

東北農政局ヒアリング

福島県庁農業担い手課ヒアリング

富岡町役場産業振興課ヒアリング

新妻有機農園ヒアリング

② しごと分野

農業の高付加価値化

【目指す姿】 農業者の収益を向上させ、担い手を増やす。それにより地域の農業を再建する。

【現状・課題（困りごと）】

- ・ 農業の担い手が少ない¹⁾。
これに対する支援を用意しても増えない²⁾。
- ・ この原因は、農業が儲からないから³⁾。
- ・ 実際、卸売りだけでは経営が安定しない⁴⁾。



【現行施策】

- 「ふくふくマルシェ」（福島県観光協会）⁵⁾
 - ・ 福島県産の特産品を買うことができるECサイト
 - ・ 県内の事業者は手数料なしで、商品を掲載することができる
- 「okuma store」（おおくままちづくり公社）⁶⁾
 - ・ 大熊町の特産品を買うことができるECサイト
 - ・ 日本酒、大熊町グッズを買うことができる

【着眼点】・ 農業者が安定した収益を得るためには、自ら販売までを行う必要がある。
・ そのように農業者の意識を変革すること、販売に向けた支援を行うことが必要。

② しごと分野

農業の高付加価値化

【施策の目的】 農業者に農作物の販売まで行ってもらおう。
それにより、農家の収益を安定させ、かつ向上させる。

【具体的な手段】

提言先：両町とまちづくり会社

○農業者の意識を変える販売伴走支援

- ・まちづくり会社が、ECサイトを運営し、農業者が気軽に農作物を出品できるように。
- ・運営組織がその売れ行きを分析し、商品企画や販売における取組に助言。
- ・農業者の工夫に対してフィードバックを行い、農業者が効果を実感できるように。

【先進事例】

広野町：新妻有機農園⁸⁾

- ・農作物をECサイトで販売。
- ・その周りの方も農業に興味を持ち始めている。

宮城県：「宮城旬鮮探訪」⁹⁾

- ・サイト訪問者の属性を分析し顧客層を見える化。それにより効果的な集客・販売促進を実施。
- ・顧客層データを県産品製造・販売事業者にフィードバックを行い、EC販売のノウハウを蓄積。

② しごと分野

農業の高付加価値化

・新妻有機農園⁷⁾



INC.ORGANIC FARM OF
NIITSUMA
株式会社新妻有機農園

TOP 会社概要 農業について 新規就農について 取扱商品 採用 お問い合わせ

農作物の栽培だけでなく、直接お客様にお届けする「BtoC」スタイルで、商品を販売しております。独自の「あひる農法」を導入した有機栽培米をはじめ、化学肥料を減らした特別栽培米、そして自社農産物を活用した6次化商品販売しております。

【第24回米・食味鑑定分析コンクール国際大会 都道府県代表 特別優秀賞受賞】

2022年12月に長野県小諸市で開催された米・食味鑑定分析コンクール国際大会で、私たちのお米「有機栽培米 ミルキークイーン」が、福島県代表として特別優秀賞を受賞しました。このような賞を獲得することができたのも、私たちのお米を美味しいと食べてくださるお客様がいることが励みとなり、頑張ってきたからです。



・HPに**事業への想い**などを掲載。魅力を伝えている。(上図)

・写真にも工夫を行い、**視覚にも働きかけている**。(右図)



・商品の**パッケージにも気を配り、商品としての価値を高めている**。



(下図)

令和4年産 福島県有機栽培米コシヒカリ「あひる」5kg
¥5,000 税込

SOLD OUT

● 別途送料がかかります。送料を確認する

米どころとして有名な地域はたくさんありますが、福島県浜通り地区(太平洋沿岸部)もその地域の一つであり、食味ランキングでも『特A』の評価を受けています。

コシヒカリは食べて美味しいことで有名ですが、我が家ではより美味しくなるように農業を一切使わず、土造りからこだわっており、自慢の一品です。

また、農業を使用しないかわりに、田んぼにあひるを放し、土造り・害虫駆除を行なっていることから、「あひる米」と呼んでおります。

※ 有機JAS認定取得済み

種類を選択する

再入荷通知を希望する

通報する

② しごと分野

サケ漁の再建

【目指す姿】

サケ漁を再建し、町の水産業を再生する。

【現状・課題（困りごと）】

- ・ サケ漁は、かつて町の水産業の中心¹⁾。
町は、これを再建したい²⁾。
- ・ 町は、サケ漁に観光資源としても期待³⁾。
現状その取組はあまり行われていない⁴⁾。
- ・ 収支は赤字。
漁協が経営を続けられないおそれ⁵⁾。

【現行施策】

- **富岡町：富岡町サケふ化施設等整備事業⁶⁾**
・ 町の重要な産業資源であるサケ漁を再開させるため、ふ化場・やな場を整備。
- **富岡川漁業協同組合：サケ増殖事業⁷⁾**
・ 県のサケ資源増殖事業の一環として、稚魚のふ化・放流を実施。

【着眼点】

- ・ サケ漁は町の水産業の再生のためにも、観光資源としても重要。
- ・ 町にとって重要なサケ漁を持続させるため、漁協の経営状況を改善する必要。

② しごとと分野

サケ漁の再建

富岡川でのサケ漁・ふ化事業の様子



サケを網で捕獲し、それを捌き、卵を取り出す⁸⁾。



② しごと分野

サケ漁の再建

【施策の目的】 サケ漁の観光資源化を通して、漁協の経営状況を改善する。
将来的にはサケの遡上量を増加させ、町の水産業を再生する。

【具体的な手段】 提言先：漁協、観光協会

- ① 「サケ漁」の観光資源化
 - ・ サケ釣りイベントを開催する（→次頁参照）
 - ・ サケ漁やふ化事業に観光客を招く
- ② 「サケ」の観光資源化
 - ・ 地域の祭りにサケを出展する（→次々頁参照）
 - つかみ取り大会・ あら汁販売、焼鮭
- ③ サケの遡上量増加の取組も行う
 - ・ クラウドファンディングによりスポンサーを募集。

【先進事例】

- ① 荒川鮭有効調査委員会・荒川サケ釣獲調査⁹⁾
サケの有効調査としてサケ釣りをしたい人を招致。
2022年度は1593人が参加。約1115万円の売上。
- ② 遊佐町・遊佐鳥海観光協会¹⁰⁾
サケのつかみ取りイベントを実施。
2023年度は240人が参加。60万円の売上。
- ③ 山形県鮭川村・鮭川村地域おこし協力隊¹¹⁾
サケ漁の文化を伝承するためクラウドファンディングを実施。約75万円の支援金を集めた。

出典：9) 「荒川サケ釣獲調査」荒川鮭有効利用調査委員会 荒川鮭有効利用調査委員会 - 荒川サケ釣獲調査 (salmon-fishing.jp)

10) 「【2023年10月29日】鮭のつかみどり大会」遊佐町 遊佐鳥海観光協会 【2023年10月29日】鮭のつかみどり大会 | 遊佐鳥海観光協会 (yuzachokai.jp)

11) 「鮭が上る川を次の世代へ伝えたい」READY FOR 鮭が上る川を次の世代へ伝えたい。(mitsuo matsunami 2021/09/01 公開) - クラウドファンディング READYFOR

② しごと分野

サケ漁の再建

・荒川

サケ釣りを
する人たち¹²⁾



2023 荒川サケダービー

荒川サケ有効利用約獲調査も今年で17年目を迎えました。
今年は、下記のとおり『荒川サケダービー』を開催いたします。
奮ってご参加ください!!

【サケダービー途中経過】
(R5.12.2 現在)

順位	全長(cm)	重量(kg)	参加日
1位	86	6.12	11月16日
2位	86	5.86	12月2日
3位	85.5	6.14	11月26日

・釣ったサケの大きさを競う「サケダービー」を開催¹³⁾



② しごと分野

サケ漁の再建

・遊佐町

サケのつかみ取り大会の様子¹⁴⁾



・つかみ取りをした人たち



・サケ捌き実演



・焼かれたサケたち

② しごと分野

再生可能エネルギーの地産地消

【目指す姿】 域内における再エネ供給体制を強みとしたまちの経済発展につなげる

【現状・課題】

- ・ 町内にメガソーラーがあるが、町外事業者のものであり、FIT制度で売電されていて、町内に再エネが流通していない¹⁾
- ・ 大熊るるるん電力株式会社（地域小電力）が自己電源を保有していない²⁾



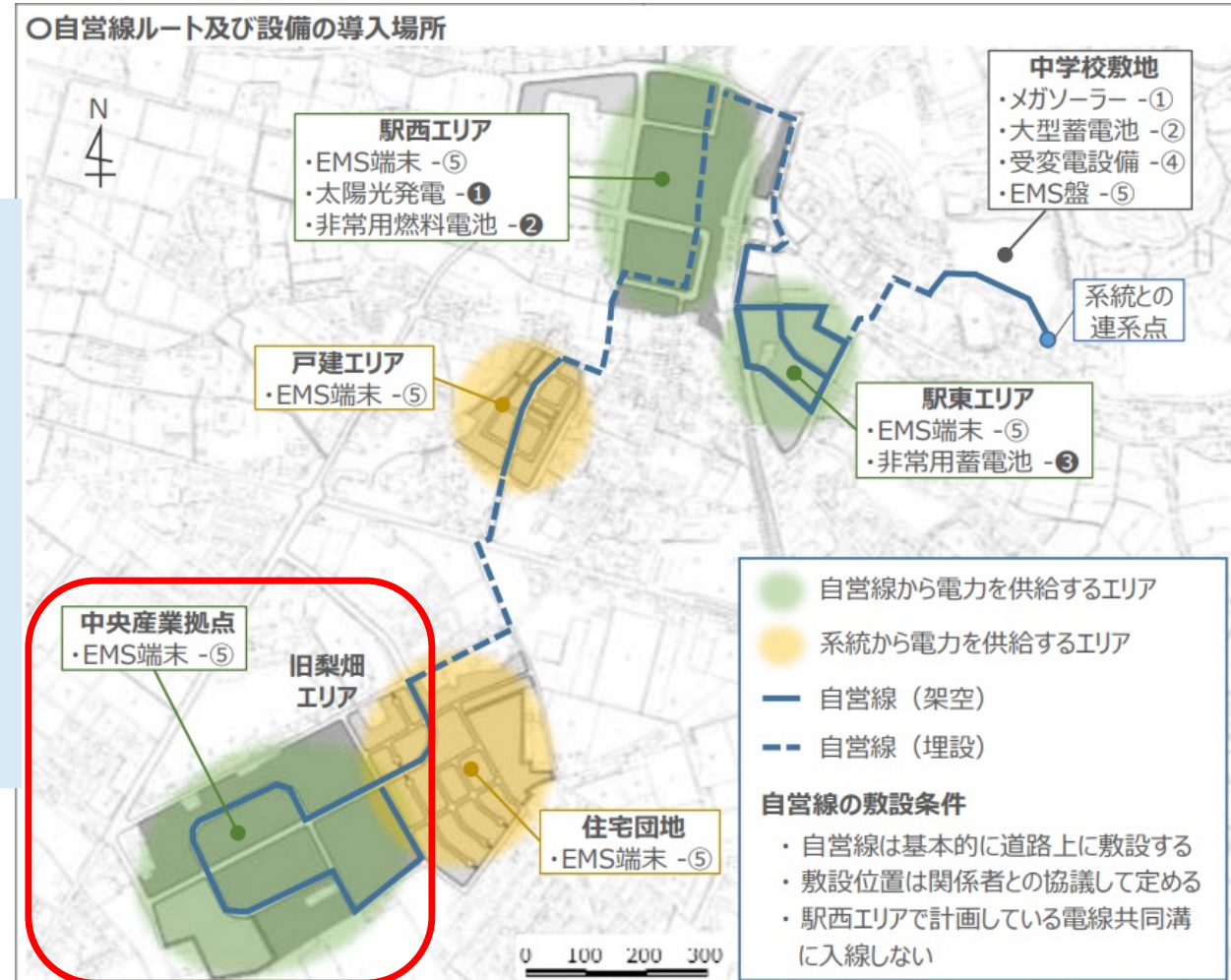
【現行の施策】

- 大熊町2050ゼロカーボン宣言³⁾
- 大熊町ゼロカーボン推進補助金⁴⁾
- 下野上スマートコミュニティ

【着眼点】 中央産業拠点への企業誘致のために、再エネ安定供給体制を構築する必要がある。

② しごと分野

再生可能エネルギーの地産地消



② しごと分野

再生可能エネルギーの地産地消

【施策の目的】 再生可能エネルギーの安定供給体制を作ること、それを強みに、企業の誘致につなげることでまちの経済の活性化につなげる。

【具体的な手段】

提言先：大熊町

- ①再生可能エネルギーの安定供給体制の構築
 - ・事業者との相対契約（進出してくる発電事業者、卒FIT電源）
 - ・自前の発電アセットの構築
- ②再エネ安定供給体制を強みとした企業誘致
 - ・造成中の中央産業拠点のRE100化

【先進事例】

浪江町「RE100工業団地構想」

RE100・・・事業を100%再エネで賄う企業

- 浪江町新エネルギー推進係 ヒアリング
 - ・問い合わせが多い
 - ・中には全てを借りたい企業も

目次

2 各論

③ にぎわい分野

(1) 商業施設の充実化

3-1-1 さくらモールとみおか

3-1-2 大野駅西商業施設

(2) 常磐線を補完する広域路線バス

(3) サイクルツーリズム

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（さくらモールとみおか・富岡町）



JR富岡駅付近のエリア概要



さくらモールとみおかの軒先の一部

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（さくらモールとみおか・富岡町）

【目指す姿】 来たい、好きだと思ってもらえる商業施設づくりにより、
にぎわいが生まれるまちにする

【現状・課題（困りごと）】

（現状）¹⁾

- ・住民が日常的な買い物を目的に「さくらモールとみおか」を利用する。
- ・周辺市町村、遠方から「富岡町地域交流館」に親子連れが集まる²⁾。

（課題）

- ・住民の6割が今後の生活において「商業施設の再開・充実が必要だ」と考えている³⁾。
- ・商圈人口を賄うために町外から人を呼び込む必要がある。

【現行施策】

- ・「さくらモールとみおか」の軒先にはベンチやテーブルが置かれ、人々の来訪・滞在を促す試みがなされている。
- ・民間事業者が「さくらモールとみおか」の指定管理を行う。

【着眼点】 集客の潜在的可能性がある「さくらモールとみおか」の活用により、にぎわいをまちに生み出すことができないか

出典：1) 富岡町役場現地調査（2023年5月21日）より引用

2) 富岡町役場福祉課ヒアリング調査（2023年12月6日）より引用

3) 復興庁「令和5年度富岡町住民意向調査 調査結果（速報版）」(https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/ikoucyousa/231201_ikouchousa_tomioka.pdf)より引用

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（さくらモールとみおか・富岡町）

【施策の目的】

居心地の良い軒先づくりを通じて、継続的なにぎわいを創出する

【具体的な手段】

提言先：富岡町、
「さくらモールとみおか」の
指定管理者

① 軒先空間の装飾

ゆったりとくつろげるベンチ・テーブルの設置
彩ある飾り付けの実施

② 町の特産品の試食屋台の設置

ワンコインで「鮭」や「日本酒」の試食・試飲を提供
→ 立ち寄りたくなる場所づくり

③ スタッフ研修の実施

「その人」ならではの良さを引き出した接客を提供
→ 満足度の向上を図る

【先進事例】⁵⁾

マックスバリュおゆみ野店の改装（千葉県千葉市）

（デザイン監修：(株)グランドレベル）

取組の内容「スーパーマーケットの軒先リニューアル」

- ・空間の装飾、50円珈琲の販売
- 人が滞在したくなる軒先の形成
- ・「その人らしさのある接客が愛される契機になる」という考えに基づいたスタッフ研修の実施

取組の効果

「人でにぎわう空間の創出、店舗への愛着の醸成」

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（さくらモールとみおか・富岡町）

リニューアル前



リニューアル後



リニューアル前後のマックスバリュおゆみ野店

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（大野駅西商業施設・大熊町）



大川原地区の商業施設

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（大野駅西商業施設・大熊町）



大野駅西エリア（2023年2月ごろ）



将来の大野駅西エリア全体イメージ



将来の大野駅西商業施設イメージ

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（大野駅西商業施設・大熊町）

【目指す姿】 来たい、好きだと思ってもらえる商業施設づくりにより、
にぎわいが生まれるまちにする

【現状・課題（困りごと）】

（現状）

- ・大川原地区に商業施設が整備される¹⁾。

（課題）

- ・住民の約4割、帰還意思がある方の約6割が「商業施設の再開・充実」が必要だと回答²⁾。
- ・商圈人口を賄うために町外から人を呼び込む必要がある。

【現行施策】³⁾

- ・大野駅西商業施設の建設（2024年12月開業）
→ 飲食店5店、物販店、コンビニが入居する。
- ・ビジネスゲートウェイ(株)が指定管理予定者
→ エリア全体の管理を実施する。

【着眼点】 駅に隣接し、集客の潜在的可能性がある「大野駅西商業施設」の活用
により、にぎわいをまちに生み出すことができないか

出典：1) 大熊町現地調査(2023年5月20日)

2) 復興庁「令和3年度大熊町住民意向調査 調査結果（速報版）」(https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/ikoucyousa/220218_ikouchousa_okuma.pdf)³⁾

3) ビジネスゲートウェイ株式会社ヒアリング調査（2023年11月30日）より引用

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（大野駅西商業施設・大熊町）

【施策の目的】

エリアマネジメントを通じて、継続的なにぎわいを創出する。

【具体的な手段】

提言先：大熊町、
ビジネスゲートウェイ(株)

① エリアマネジメント体制の構築

駅西エリアの各関係者が組織に参画
→ 民間主導で特色ある地域づくり

② にぎわい創出活動の実施

商業施設前の広場や駐車場を利用した
「オープンカフェ」や「マルシェ」の実施

③ 活動資金の確保に向けた仕組みづくり

②の売上の一部を活動資金に拠出する仕組みづくり
→ 継続的なにぎわいづくりを可能にする

【先進事例】⁴⁾

愛知県豊田市「駅周辺広場でのエリアマネジメント」

関係者で構成する
「あそべるとよた推進協議会」を中心とした活動。

取組の内容：

「ペDESTリアンデッキを活用したオープンカフェの実施」
・くつろげる空間づくり
→ ビアガーデン、サッカー観戦の場に
・売上の5%を協議会へ拠出する仕組みづくり

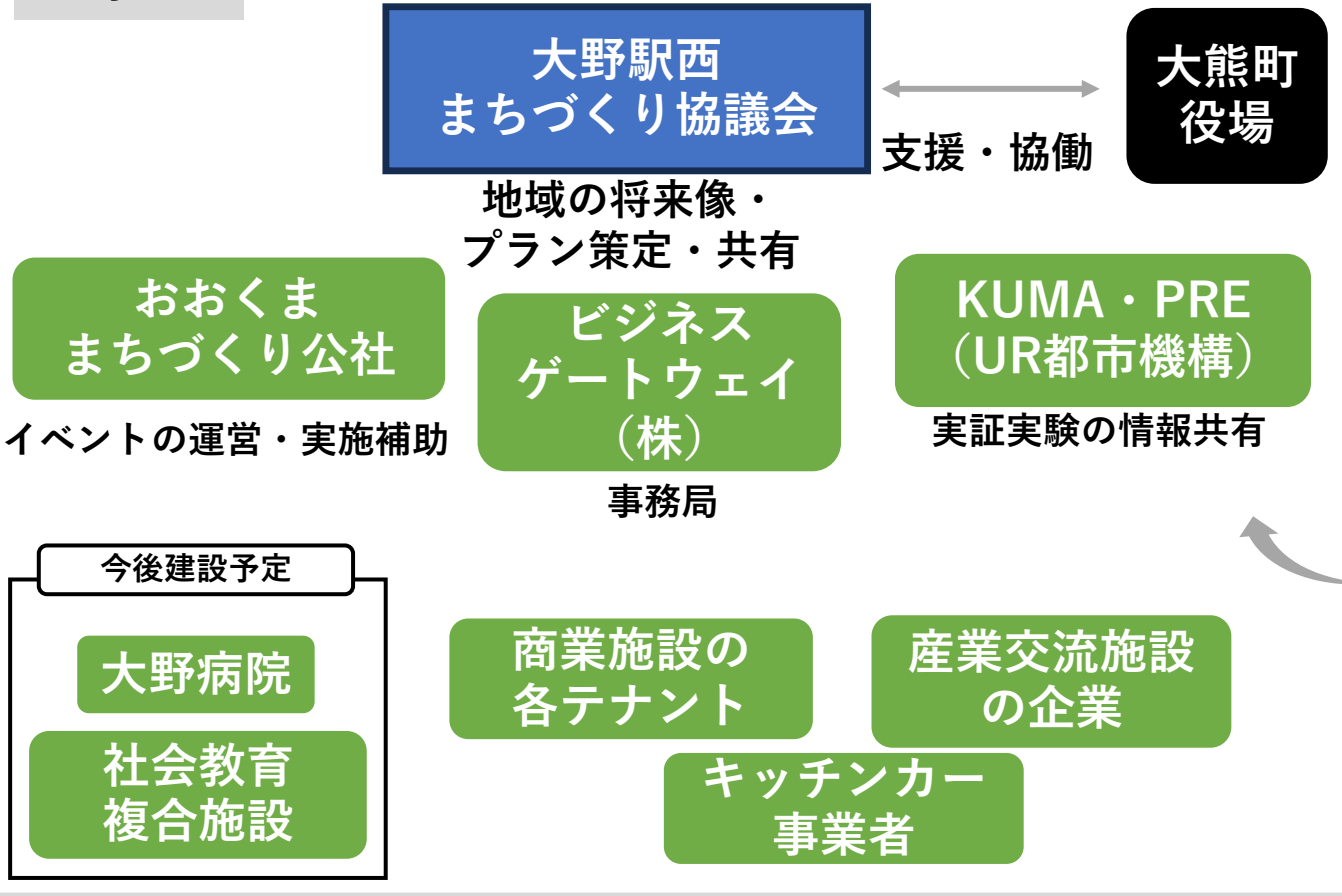
取組の効果：

「単なる歩行空間が、憩いやにぎわい創出の空間へ」

③ にぎわい分野

商業施設の充実化（大野駅西商業施設・大熊町）

町内



大野駅西まちづくり協議会（仮）を中心に、大野駅西エリア全体のビジョンを共有し、その実現に向けて各関係者が役割を発揮する。

避難住民の来訪を促すため、彼らの意見も反映させる

大野駅西のエリアマネジメント組織（案）

出典：（図）大熊町現地調査（2023年5月、8月）、ビジネスゲートウェイ株式会社ヒアリング調査（2023年11月30日）より大野駅西エリアに関わることが予想される関係者を踏まえWSD作成

③ にぎわい分野

常磐線を補完する広域路線バス

【目指す姿】

自家用車に頼らず移動ができる移動の仕組みをつくる

【現状・課題（困りごと）】

- ・ 既存のバスは、運行時間や曜日が限定されている。
- ・ 常磐線で来庁された外国人観光客等の観光施設間移動に支障
- ・ 学生、高齢者の生活拠点移動に支障¹⁾



【現行施策】

- ・ 広域路線バス 7 路線²⁾
(福島県避難地域広域公共交通検討協議会)
- ・ 町内循環バス及びデマンドバス³⁾
(富岡町)
- ・ 町内循環バス (大熊町)⁴⁾

【着眼点】

既存路線バスを生かし、広域化して利便性の向上を図る。

出典：1) 大熊町議会だよりNo67（令和5年11月1日号）決算質疑「町内循環バス」、富岡町議会議事録令和5年第4回定例会41項、福島県庁生活環境部生活交通課ヒアリング（10月30日）

2) 福島県避難地域広域公共交通計画（令和5年3月）

3) 富岡町役場HP「富岡町観光マップについて」、4) 大熊町役場HP「交通 - 無料の生活循環バスが運行中です」

③ にぎわい分野

常磐線を補完する広域路線バス

【施策の目的】

バス路線の選択と集中による利便性向上

【具体的な手段】

提言先：県、両町

広域路線：富岡 - 浪江FH2R線を基本路線とする
(仮称)「福島ホープツーリズム線」の創設

その上で

- (1) 両町の町内循環バスを路線統合・共同運行
運行主体：一部事務組合（双葉地方広域市町村圏組合）
- (2) 広域路線とダイヤ調整・共同運行・便数増
運行主体：(株)新常磐交通と上記事務組合

【先進事例】

山形県鶴岡市「庄内交通」

- ・巡回する路線バス増便（4倍）により、乗客数を3倍以上とした。
- ・結果、潜在的な需要を引き出した。⁵⁾
- ・現行資源を最適化して、利便性の向上を図れる。

③ にぎわい分野

常磐線を補完する広域路線バス

●運行ルート図 現行路線図 青が富岡—浪江FH2R線

南相馬市 FH2R
北産業団地 柳塩産業団地
浪江駅前 浪江町役場前
双葉駅前
双葉町
大野駅前
大熊町循環バス
大熊町役場
川内村
富岡町 富岡町役場
富岡駅前 さくらモール
富岡町循環バス

双葉町シャトルバス

① 町内循環バスを
路線統合・共同運行

② ダイヤ調整
共同運行
運行便増

●運行ルート図 統合後路線図 青が富岡—浪江FH2R線

南相馬市 FH2R
北産業団地 柳塩産業団地
浪江駅前 浪江町役場前
双葉駅前
双葉町
大野駅前
大熊町役場
大熊町
大熊町役場
川内村
富岡町 富岡町役場
富岡駅前 さくらモール

双葉町：伝承館

富岡町役場

富岡駅前：小浜

赤：統合後の共同運行バス

紫：大熊町循環バス（点線は降車のみ） 橙：富岡町循環バス 緑：双葉町シャトルバス

出典（地図）：福島県避難地域広域公共交通計画（令和5年3月）を一部加工

画像：双葉町HP「双葉町内の交通」、富岡町役場HP「富岡町観光マップについて」、大熊町役場HP「交通・無料の生活循環バスが運行中です」、東日本大震災・原子力災害伝承館HP

③ にぎわい分野

サイクルツーリズム

【目指す姿】

今より多くの人々が、何度も来たくなる町にする。

【現状・課題（困りごと）】

（現状）

- ・ 自然環境が豊か
- ・ サイクリストが通る国道が通っている
- ・ 自転車ロードレースのルートになった

（課題）

- ・ 周辺自治体に比べ、交流人口が少ない¹⁾
→ 飲食店の利用者が少なく、営業時間が限られるとともに、店舗数もわずか
→ 町を知るきっかけが限られ、居住人口が増えにくい

【現行施策】

（富岡町）

- ・ 桜が有名であり、「桜まつり」が開かれている。
- ・ 博物館である「とみおかアーカイブミュージアム」がある。

（大熊町）

- ・ 町民向けに「坂下ダムウォーキング」などのイベントが行われている。

【着眼点】

- ・ 町外から継続的に人を呼べ、再訪が望めるコンテンツが必要である。
- ・ 町全体の自然を生かすために、周遊型のコンテンツが適している。
- ・ サイクリストを呼び込める環境がある。

③ にぎわい分野

サイクルツーリズム

富岡町・大熊町の自然、サイクリング環境



富岡町の海岸²⁾



大熊町のひまわり畑³⁾



信号が少なくサイクリングに適した県道⁴⁾

出典：2) WSD撮影

3) 大熊町HP「大川原のヒマわり畑が満開に（2018年8月17日撮影）」<https://www.town.okuma.fukushima.jp/site/shashinkan/8031.html>より引用

4) 福島県HP「浜通り地方にあるインフラ施設」<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/infra/hamakaido.html>より引用

③ にぎわい分野

サイクルツーリズム

【施策の目的】

サイクリングを目的とした
観光客を町に呼び込む。

【具体的な手段】

提言先：両町ほか

① 来訪のきっかけになるイベントの創設

- トライアスロン大会（富岡町）
- ヒルクライムロードレース（大熊町）
- フードハンティングツアー（富岡町観光協会・大熊町）

② サイクリングのための環境整備

- 町内モデルルートの設定と案内整備（両町）
- レンタサイクルポートの整備（富岡町・大熊町）
- サイクルラックバスの運行（両町・新常磐交通）

③ プロモーション

- サイクリングに特化した地域おこし協力隊の募集（両町）

【先進事例】

茨城県土浦市

- ・霞ヶ浦を一周する広域サイクリングロードが通っており、同時に市内でも、自転車環境の整備や自転車に関するイベントが開かれている
- ・土浦市観光入込数は、自転車環境整備開始2016年からコロナ禍前の2019年の間に大幅に増加⁵⁾

【実効性の根拠】

- ・サイクルツーリズム経験者の70%以上に、再訪の意思がある⁶⁾

出典：5) 茨城県「茨城の観光レクリエーション現況」の平成28年から令和元年分までを参照

6) ツール・ド・ニッポン「サイクリスト国勢調査2021【webサマリ版】」（2021/9/8）<https://www.slideshare.net/haka/2021web-250138163>

③ にぎわい分野

サイクルツーリズム



① 広島県江田島市のフードハンティングツアー「Otsukai！」⁷⁾
→ 島内の農家や卸市場を巡り、集めた食材を調理して食べるツアー



② 千葉県館山市の自転車ラックバス⁸⁾



③ 沖永良部島・和泊町「チャリおこし協力隊」⁹⁾
→ SNSでの情報発信などの業務を担当している

出典：7) 一般社団法人フードHP「サイクリング体験プログラム、その名も「Otsukai！」」<https://fuudo.jp/otsukai-2021-summer/>より引用

8) 館山市観光協会「自転車ラックバス」<https://tateyamacity.com/bicycle-rackbus>より引用

9) くらすわどまり「“自転車であちづくりを担うプロ”を募集します」<https://kurasu-wadomari.info/archives/9518>より引用

目次

2 各論

④ つながり分野

(1) 失われたコミュニティの創出

(2) 避難住民による協働まちづくり

(3) 地域への愛着を育む教育

④ つながり分野

失われたコミュニティの創出

【施策の目的】

コミュニティカフェを通して日常的なコミュニティの創出をする。

【具体的な手段】

提言先：両町

コミュニティカフェの設立・運営

内容：

- ・カフェランドリーを想定。
 - 洗濯がてらゆったりできる空間
- ・簡単な健康器具や検査器具も置く。
 - 共通の話題で会話のきっかけ作り
- ・小さな図書館
 - 大熊町は「本の町」なので地域から読まない本を集める

【先進事例】

東京都港区「芝の家」

カフェで出会った方々が交流を通して共通の趣味などを見つける。
そして様々な「部活動」を作り、個人的に交流している利用者も多い。
→カフェで会って話すだけでなく、個人活動でもともに活動するコミュニティを作り上げている。

④ つながり分野

失われたコミュニティの創出

【目指す姿】

コミュニティがある住んでいて安心できる町にする

【現状・課題（困りごと）】

- ・震災前にかつてあったコミュニティが無くなっている
- ↓
- ・生活上における困りごとを助け合える人が近くに存在しない

【現行施策】

- (富岡) とみおか子ども食堂
→子育て世代や子供の交流を図っている
- (大熊) ・正月の餅つき大会
・花火大会
・坂下ダムウォーキング
→一過的なイベントで交流を促進している

【着眼点】

高齢者の日常的なコミュニティを作る必要がある。

④ つながり分野

失われたコミュニティの創出

① 担い手を集める

役場がコミュニティカフェの運営に携わりたい町民を公募する。
集まった町民で任意団体を結成する。

② カフェを設立する

設立主体：両町役場

場所：

(富岡町)

さくらモールとみおかの軒先

(大熊町)

大川原地区

③ カフェを運営する

運営主体：

①の任意団体

又は既存の町民団体

追加コンテンツや開催頻度は団体が随時変更可能。
役場は期限は未定だが、運営費の負担をする。

④ つながり分野

失われたコミュニティの創出



港区にあるコミュニティカフェ「芝の家」の様子



「芝の家」の部活動の様子

④ つながり分野

避難住民と協働のまちづくり



出典：1) 大熊町 旧図書館 (WSD撮影)

2) ビジネスゲートウェイ株式会社「施設の説明」(<https://koubo.business-gateway.jp/#content>)より引用

④ つながり分野

避難住民と協働のまちづくり

【目指す姿】 疎外感を覚えている避難住民がつながりを深めてよりまちを好きになる

【現状・課題（困りごと）】

「私たちのシンボルであった施設が知らぬ間に壊されてしまった、もとの町民はもういないのかなあ³⁾」

「これからは若者によるまちづくり、高齢ではまちの力になることができない⁴⁾」
といったまちに対する疎外感

【現行施策】

- ・まちとのつながりを維持する取り組み
→各種イベントの開催・広報誌の送付
- ・行政やまちづくりに関わる取り組み
→町政懇談会
+まちづくりワークショップ

- 【着眼点】**
- ・住民と行政によるまちづくりの間の乖離に疎外感の要因がある
 - ・その要因の解消にはまちづくりへの参加に加えてその成果の実感も必要である

出典：3) 工学研究科量子エネルギー工学専攻M1遠藤瞭様（大熊町出身）ヒアリング

4) 福島県いわき市小名浜 県営復興公営住宅 下神白団地の皆様ヒアリング

④ つながり分野

避難住民と協働のまちづくり

【施策の目的】

- ・意見反映の可視化を通してまちづくりへの貢献を実感する
- ・その実感を通してまちとのつながりが深まりより愛着がわくようにする

【具体的な手段】

提言先：両町

- ・避難住民と協働した公共施設整備
→避難先での意見集約
コミュニティ形成支援団体：場づくり
コーディネーター：（地元）大学教授・大学生
コンサル・建設会社：意見集約・設計図/模型
整備検討地
富岡：リフレ富岡跡地
大熊：大野駅西 社会教育複合施設

【先進事例】

宮崎県日向市「駅前広場整備事業」⁵⁾

- ①計画検討段階からの市民参加
 - ②実物模型を確認するプロセス
→実際に見たり使用したりして計画案を判断
- ↓
- ・歩行者自転車交通量が1.5倍に増加
 - ・市民企画イベント数が1.8倍に増加
 - ・自分たちの広場であるという愛着を醸成

④ つながり分野

避難住民と協働のまちづくり

意見反映プロセスのフロー



現地確認のイメージ（日向市の例）⁶⁾



④ つながり分野

地域への愛着を育む教育

【目指す姿】 子どもたちとまちとの間に将来にわたるつながりをつくり深めることで、地域の存続に寄与する

【現状・課題（困りごと）】

(富岡)
幼保連携型認定こども園、小中学校
(大熊)
学び舎ゆめの森（幼保小中連携型教育施設）

・子どもたちが進学や就職を機に町を離れて、その後も町とのつながり・関わりが薄くなってしまふ恐れがある



【現行施策】

(富岡)
・キャリア教育授業
・職場体験

(大熊・ゆめの森)¹⁾
・地域の人に名刺配り(イベントへの招待)
・起業体験

【着眼点】

地域の人とのさらなる交流を通じて地域への愛着を醸成することで、子どもたちと地域のつながりをより一層深められないか

④ つながり分野

地域への愛着を育む教育

【施策の目的】 子どもたちが生まれ育った町に抱く愛着を深め、いつかは故郷に戻りたい、関わり続けたいと思えるようにする

【具体的な手段】

提言先：両町

○カタリ場(地域の子どもと大人が対話し交流する場)の実施

・小中学生 対 大人(様々な経験知を持つ地域の大人、避難者、大学生等)で対話し、生き方や人生観を知る中で地域やそこで暮らす人の魅力を知る

○対話を重視した職場体験の実施

・運営主体：両町教育委員会
・小中学生が職場を訪問し、そこで働く人と対話しながら将来イメージを形成する

【先進事例】

島根県益田市「益田版カタリ場」²⁾

参加した子どもたちに対するアンケート結果(2023年)

- ・益田には魅力的な大人が多い(65%→87%)
- ・一度は外に出たとしても、益田市で暮らしたい(50%→66%)

⇒子どもたちの地域愛が深まる

④ つながり分野

地域への愛着を育む教育

カタリ場の導入イメージ

① 運営体制・実施体制の構築

ex. 運営主体・実施主体ともに町の教育委員会 or
運営主体は教育委員会、実施主体は公募採用の
コーディネーター(学校等に配置)



② 語り手の募集

ex. イベント等で学校を訪れた地域の大人に声をかける
町と連携協定等を結んでいる大学へ呼び掛ける



③ カタリ場の実施

総合的な学習の時間や社会科の時間を使って実施



各施策の提言先 一覧

分野	施策名	提言先
ひと・ くらし	空き家を活用した戸建て賃貸住宅の供給	両町
	体験移住	両町
	農業体験型親子ワークショップ	大熊町
しごと	農業の大規模化	両町
	農業の高付加価値化	両町
	サケ漁の再建	富岡町・富岡川漁協・富岡町観光協会
	再生可能エネルギーの地産地消	大熊町
にぎわい	商業施設の充実化（さくらモールとみおか・富岡町）	富岡町・さくらモールとみおかの指定管理者
	商業施設の充実化（大野駅にし商業施設・大熊町）	大熊町・ビジネスゲートウェイ(株)
	常磐線を補完する広域路線バス	福島県・両町
	サイクルツーリズム	両町・富岡町観光協会・新常磐交通
つながり	失われたコミュニティの創出	両町
	避難住民との協働まちづくり	両町
	地域への愛着を育む教育	両町

目次

3 まとめ

① 提言の全体像

② 提言内容

(1) 来てもらう

(2) 関わってもらう・住んでももらう

(3) 活躍してもらう

(4) 愛してもらう

③ おわりに

① 提言の全体像

まちが復興するとは

辞書的意味：一度衰えたものが再び盛んになること

WSDでの考え： まちが活性化する
人々がまちに愛着をもつ

・ 活性化する

人々が

まちに

来る

まちに

関わる・住む

まちで

活躍する

・ 愛着を持つ

まちを

愛する

① 提言の全体像

復興

「富岡町・大熊町」が再び盛んになる



まちの活性化（①②③）・まちへの愛着④

① 来る



② 関わる・住



③ 活躍する



④ 愛する

① 提言の全体像

来てもらう

商業施設充実化

サケの
観光資源化

サイクル観光

広域路線バス

住んでもらう

中間管理住宅

農業体験

体験移住

社会教育

活躍してもらう

農業の大規模化

農作物の
高付加価値化

サケ漁

再エネ地産地消

愛してもらう

商業施設充実化

サケ漁

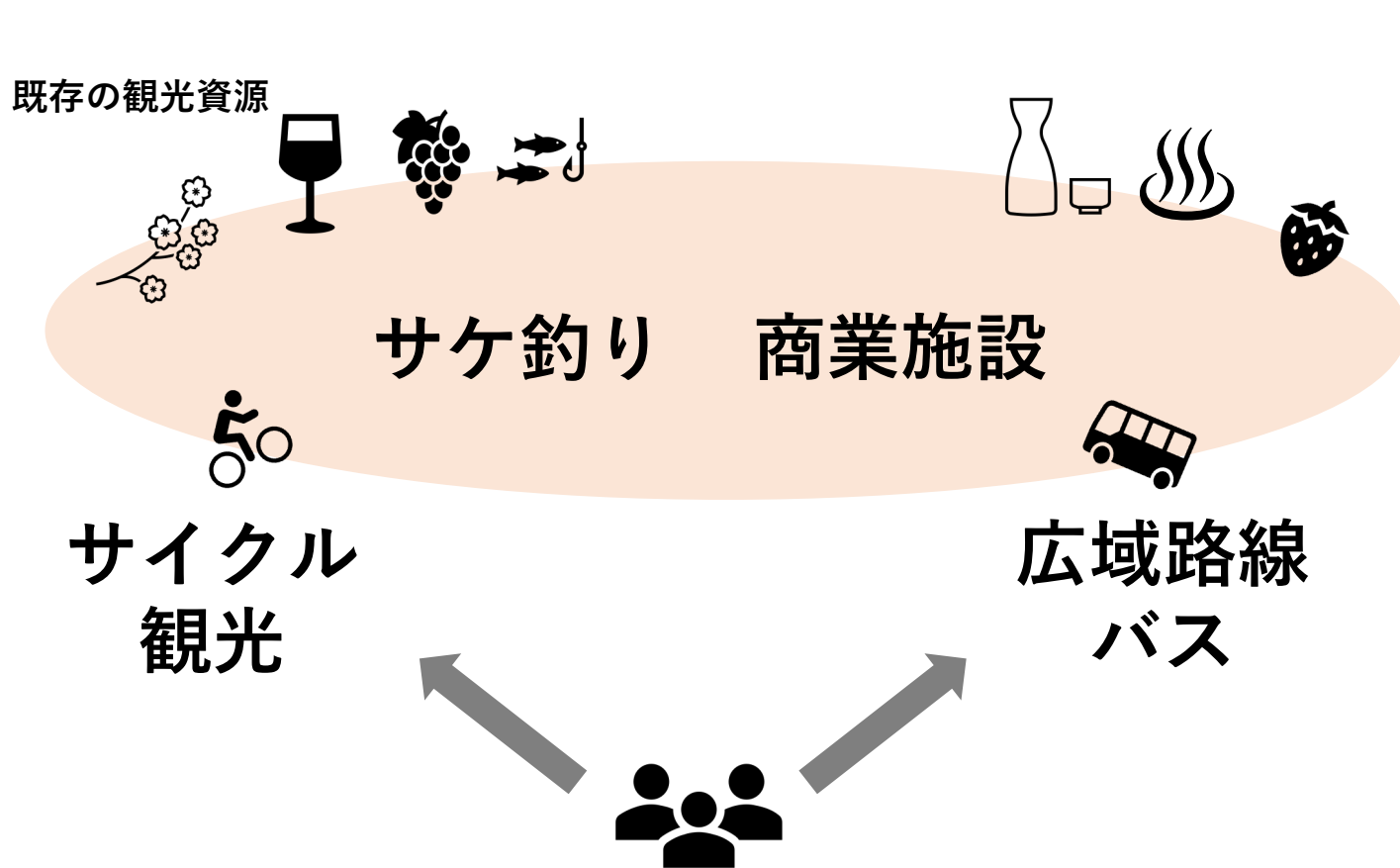
コミュニティ

協働まちづくり

社会教育

② 提言内容

(1) 来てもらう



観光資源 (既存+サイクル、サケ、商業)
で人々に来てもらう

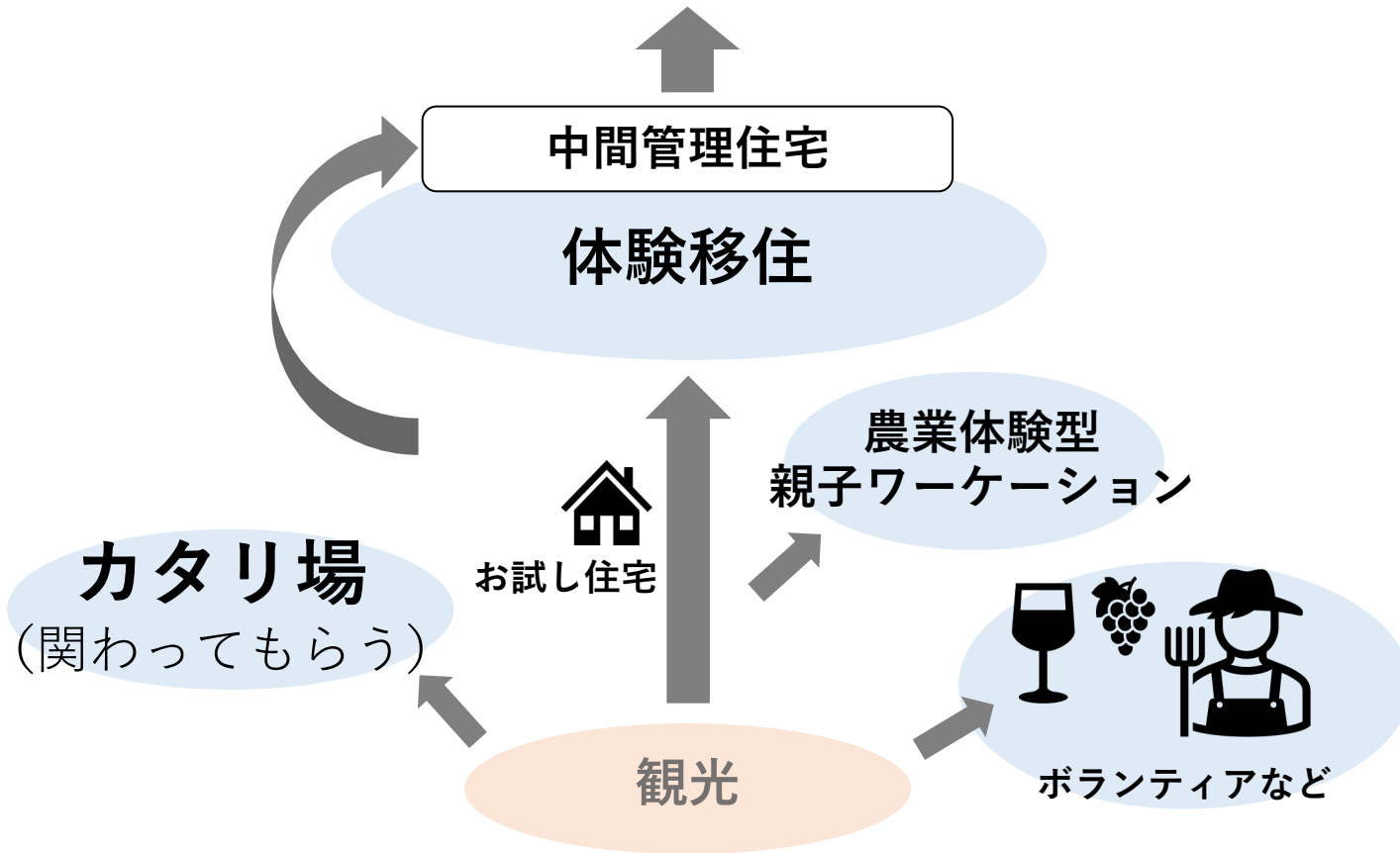
例)

- ・サイクル観光
- 町の観光資源
(+サケ、商業施設)
- 飲酒後など、路線バスでの移動が可能

② 提言内容

(2) 関わってもらおう・住んでももらおう

本格的な移住へ



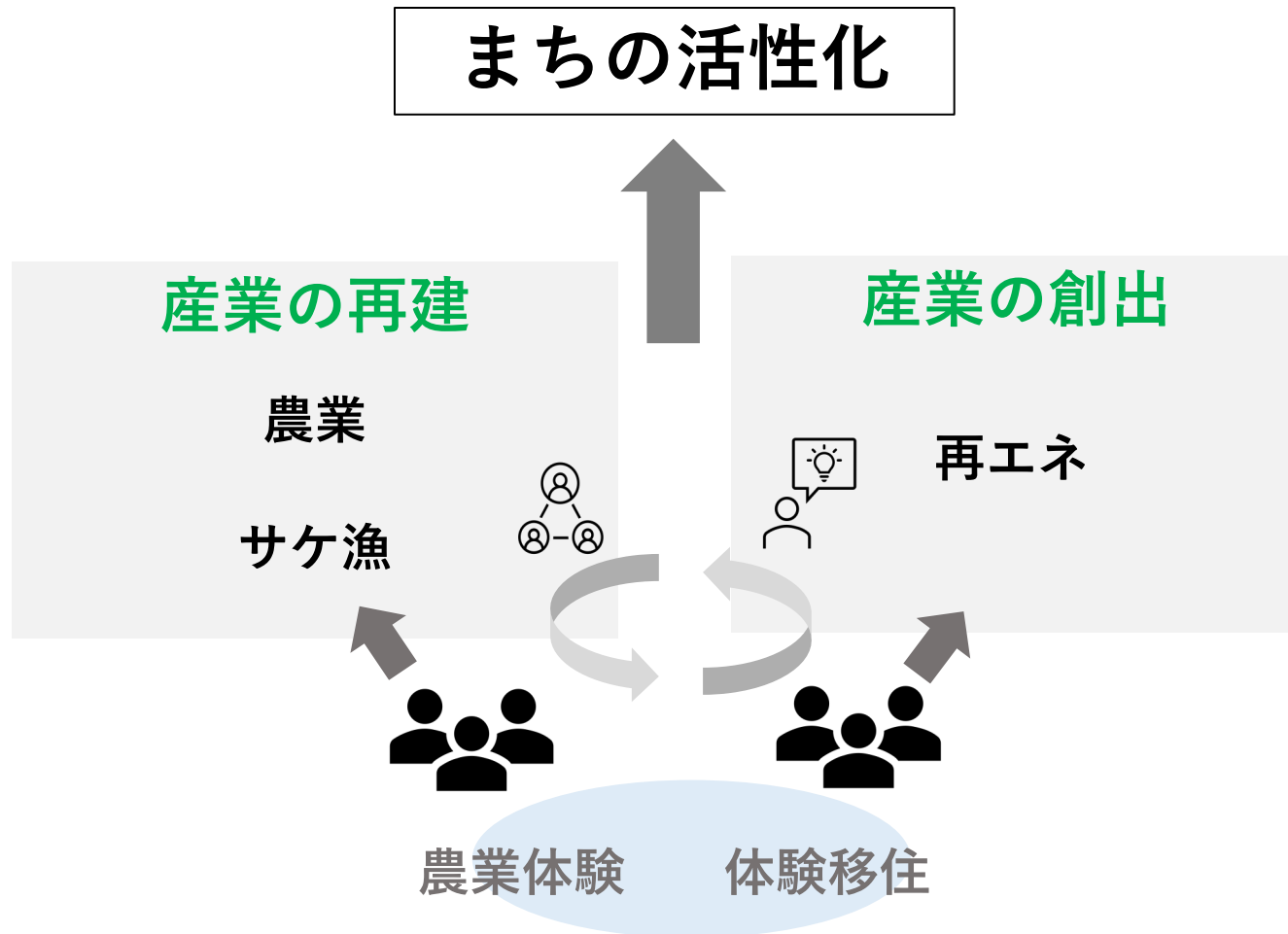
カタリ場を通して町と関わってもらおう
体験事業を通して町に住んでみてもらう

例)

- ・ お試し移住などを経て関わりを増やし、そこから一部が「農業体験」や「体験移住」の参加へ
- ・ そして、町の魅力を実感してもらい、本格的な移住へ

② 提言内容

(3) 活躍してもらおう



地域の産業で活躍してもらおう
各産業や活躍する人同士が相互に影響し合う

↓
イノベーションを創出する
新たな視点を持った人材を育む

例)

- ・ 農業と再エネの連携による、地域に根差した形での営農型太陽光発電の実施。
- ・ 農業をやっている人がサケ漁にも携わり、米に合うサケ商品の開発に乗り出す。またサケ料理に合った野菜を作り、地域のレストランに売る。

② 提言内容

(4) 愛してもらおう

まちへの愛着

ひと×伝統
サケ漁

まち×避難住民
協働まちづくり

ひと×ひと
コミュニティカフェ
地元商業施設

まち×子ども
社会教育

多様な繋がりを育むことで、
まちに愛着をもってもらおう

例)

- ・町に移り住んだ人への伝統文化の継承
- ・コミュニティカフェの設置に係る住民参加型WS

提言の全体像

将来起こるかもしれない未曾有の長期的な災害における、よりよき復興 のために役立てる

▲
復興

「富岡町・大熊町」が再び盛んになる

▲
まちの活性化（①②③）・まちへの愛着④

① 来る

② 関わる・住

③ 活躍する

④ 愛する

③ おわりに

これまでのWSDでの活動を通して

- ・ 復興とは何かを考え続けた。
- ・ 様々な人と出会い、様々な立場からの復興への思いがあることを実感した。このような思いを定量的に示すことは難しく、歯痒さを感じた。
- ・ 私たちは富岡や大熊、ひいては福島に対して愛着を感じ、この気持ちを大切にしたいと思った。これからも様々な立場から両町や福島に関わっていきたいと考えている。



ご清聴ありがとうございました。